

どのように生きるべきか(騙されないこと) (ピリピ 4:6-7)

信者がこの世を生きる間に忘れてはいけない一つの大事なことが何かと言いますと、サタンが存在して、サタンが信者を倒そうとして、偽りをもって騙しているんだということを意識しなければなりません。なぜかと言いますと、サタンは私たちの肉の目には見えないので意識して居ないと、そして、その正体、また、策略が正しくわかっていないと、ついつい騙されてしまうようになるからです。サタンのさまざまな特徴の中で一番の特徴が、騙す者というところがあります。ヨハネ 8:44 にも悪魔、サタンは偽り者であり、偽りの父、すべての偽りの根源がそこにあるとそのように言われています。エペソ 6:11 にも、悪魔が策略を用いると書いてあります。とても頭の良い賢いものなのです。人間の知恵、またレベルなどではかなわないものなのです。なので悪魔の騙しごとを意識して、自分を捨てて、自分のレベルを捨てて、キリストに立って神のみことばに立たないといけないものなのです。この悪魔、サタンは信者を騙して、騙されたら I ペテロ 5:8 に書かれているように、食い尽くしてしまいます。信仰にも立たないし、倒れてしまうし、また立ち上がれなくなってしまうし、イエス・キリストの愛も疑ってしまうようになるし、荒野をグルグル回っているかのような状態が続くようになります。サタンに騙された結果、どうなるかと言いますと、まず不信仰に捕らわれるようになり、そして、霊的なことが麻痺して肉に捕らわれるようになります。そして、心からは落胆してしまうようになるでしょう。なので信者がこの地上にいる間にどのように生きるべきなのかという質問に対しての一つの正解が何かと言いますと、このサタンの騙しごとがよくわかって、それを見極めて、サタンに騙されないで勝利すること、これが信者がどのように生きるべきなのかという問いかけに対しての正解です。信仰生活の大きな項目の一つが、積極的に何かをどうするかもありますけれども、悪魔、サタンに騙されないということにあるということをぜひ覚えていてください。先ほども申し上げましたように、サタンに騙されないためには自分のレベル、自分の基準を持って見ているは 100%騙されます。なので自分の基準、また自分の価値観、自分のレベルなどを相手にしてはいけません。それを捨てるべきです。サタンの騙しごとがわかっているとすれば、サタンに騙されないで勝利するためには、

まず第 1 に、だからこそ神様の契約を思い出して、その神様の契約に釘を刺し続けるべきです。

これが信仰生活です。いろいろ状況、いろいろなことがありますけれども、永遠に変わらない悪魔、サタンが一番恐れる神様の真理のみことば、神の契約に釘を刺すだけではなくて、刺し続けることです。朝、目覚めたときにも、夜、眠る前にも契約に釘を刺すことをずっとやること、これが信者がどのように生きるべきなのかという正解です。その契約こそまとめますとこのようになります。感謝なことに、聖書はそれを分厚い 66 巻の聖書の中でまとめてくれました。その神の契約こそキリスト Only なのです。Only キリスト、これに釘を刺すべきなのです。Only キリストに釘を刺すというのは、自分の人生のすべての問題はキリストによってもう終わった、に釘を刺して釘を刺して釘を刺す、これが求められます。そして、Only キリストというのは、過去がどうであれ、今の状況がどんなに不安な状況であろうが、そういうことは全く関係なく、キリストひとりによって私はもう終わっただけではなくて充分なのだ。これが契約なのです。この契約に刑務所の中に居る時も、無視された時でも、倒れた時でも、この契約に釘を刺し続けること、これが求められます。なぜでしょうか。悪魔が偽りをもって私たちを騙しているからなのです。皆さんが何をどうすべきなのかを頭で一生懸命考えて絞り出した。それは正解ではありません。そのすべてが皆さんが研究して悩んで頑張って頭から絞り出したといっても悪魔、サタンのことを全く意識せずにやったことなので、それは答えになりません。悪魔、サタン、特に偽りの父、騙しごとがわかっているとすれば、契約に釘を刺すこと以外に方法はありません。感情でもありません。正しいか正しくないかでもありません。不利なのか有利なのかでもありません。キリスト Only に釘を刺して、また刺して、また刺すことなのです。もう終わったんだよ。もう充分なんだよ。だから、神の契約は神の国 Only になります。地上にいて、地上にはさまざまなことがありますけれども、私はそこから引き上げられて選び出された神の国の民なのだ。だから、神の国の祝福をもうすでにいただいているもの、天にある霊的すべての祝福の主人公なのだ。これに釘を刺して、また刺すべきなのです。神の祝福、神の国の祝福を頂いたということは、地上にいながらも地上のものに左右されないということです。地

上のものがちっとも羨ましくありません。それが天にある霊的全ての祝福を頂いたということです。私は神の国の民なのだ。だから、これからこの地上に私の人生の歩みを通して、この神の国のことが現われるようになるよ。なので何にも問題などありません。地上のことばかり見ていると、これがどうなるのだろう、可能なのか、不可能なのか、良いか悪いか、いろいろな評価があるかもしれません。でも、神の国 Only の場合には、それが一切問題になりません。神の国が必要だし、神の国が現れるとすれば、それ Only なのです。それが答えなのです。なので私たちは福音宣教を目標にして生きるようになるし、それが特権なのです。そして、最後に契約をまとめますと聖霊 Only です。聖霊 Only というのは、聖霊様が創造の力、いのちの力の聖霊様が、要塞も破るその力の聖霊様が、その力をもって私の内側に働いて私が行く所々でその力を現すようになります。これが契約なのです。2 部礼拝でも少し触れますけれども、言い訳などは全くいらぬものになります。神の契約に釘を刺し続けること、キリスト Only、神の国 Only、地上のものに振り回されないように。聖霊 Only、自分の限界、自分の条件、環境などに振り回されないように。聖霊の力で充分で聖霊の力でなければいけません。これが神の契約なのです。つつい何かがある度に、この契約を離れて自分で悩んで自分で頑張るでしょう。自分で研究しているのではないのでしょうか。そこが失敗なのです。悪魔、サタンのことが分かっていないから、悪魔、サタンのことを実際的には信じていないから、無視してるからなのです。本当に目に見えないけれども、偽りをもって信者を倒そうと策略を持って騙そうとしている悪魔、サタンのことが本当に分かっているのであれば、この契約の方に釘を刺して、また刺して、また刺す以外に他にないのではないのでしょうか。これで充分なのです。これで騙されなくてもいいのだね。これでもう勝利なのだね。

この契約に釘を刺すことによって、2 番目です。そのときに初めて、これは信者のものではないのだね。昔は私と仲良くしていたものなのですが、昔の同窓生かも分かりません。昔の仲間かも分かりませんが、今はこの契約の中に召されている信者である自分のものではないんだ。いらぬものなんだ、ということを見分けてそれを認め続けることなのです。

それがそのように認められるようになったときに捨て続けることです。それが今までは当たり前だったかもしれません。今も信者でない世の中ではそれが当たり前横行しているものなのです。こうなればこうするしかないんだ。こうだったからこうなったのは仕方がないのではないか。そのように当然だったものかもしれません。それに対して、しかし、私は信者ではないのか。私はこの契約の民ではないのか。この契約の上に立って契約に照らしてみたときに、これは自分とは関係ないもの、もう縁が切れているもの、自分のもの、自分の所有ではないのではないかということを見分けるようにしなければなりません。それが悪魔、サタンの騙しごとを打ち破ることです。Ⅱコリント 5:17 には、キリスト・イエスのうちにあるものは古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなるとあります。だから、古いものではないのに、古いものそのままにさせようとしているのが悪魔、サタンの騙しごとなのです。ガラテヤ 5:24-26 にこう書いてあります。「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ることをないようにしましょう」。私たちは古いものではなくて、古いものはもう十字架とともにつけられたので、神の契約の上に立って見たときに、今まで仕方がない、今まで当たり前だったものが違うのではないのかと思うようにならないといけません。エペソ 4:22、「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと」。古い人なのです、これは。今までは当たり前だったことがこれは違うよ。私は新しくなったので。今の私にとってこれは当たり前でもないし、私のものではないと認めることによって捨てることなのです。もう 1 か所読みましょうか。コロサイ 3:9-10。「互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いと一しょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです」。古い人は脱ぎ捨てて。古い人、古い人と聖書が強調している内容なのです。それが何なのかということは、もう数え切れないものではないけれども、今申し上げましたように、今まで仕方がないと思われていて、当たり前とっていて、そのままそれにやられて流されていたものに対して、違ふよとブレーキをかけるようにしなければなりません。そのためには、まず神の契約に釘を刺して、また刺して、また刺して、それを馬鹿のようにアホのように繰り返して行うようにしなければなりません。もう暗記して分かっているから、それでもいいのではないかということ悪魔のこと、霊的なことが分かっていないからです。刻印、根、体質になるまでやらないといけません。キリスト Only。神の国

Only。聖霊 Only。これで充分です。そこに立って見たときに悪魔の騙しごとが見えて来るようになります。

それを少しまとめてみました。このほかにもたくさん取り上げられるでしょうけれども、まず第 1 に、不安というのは人間が避けられないものだという認識あるでしょう。でも、この契約に釘を刺してみたときに、よくよく考えてみてください。不安というのは、神の契約の民にはいらぬものです。キリスト Only、Only 神の国、聖霊 Only が間違いなければ不安はいらぬものなのに、当たり前のように襲いかかってくるのではないのでしょうか。だから不安に駆られてしまうことは悪魔の偽りだ、騙しごとだということが見分けられるようになるものなのです。今まで通りに、習慣通りに、こういう状況、こういう場面では不安になるのは当たり前で仕方がない、人間だからということが脳裏の中に残っているかもしれない。そこを打破して行かないといけません。それが信者がどのように生きるべきなのかに対しての正解です。真剣に考えないといけません。信者でも不安に駆られる場合があります。それが別にそうしたからといって悪いと言うつもりはありませんけれども、でもそれが仕方がない当たり前のものにしてはいけません。今悪魔、サタンが自分を騙そうとしているのだ。言葉を裏返しますと契約から引き離そうとしているのだと見分けないといけません。感情的にどうなるかは後々の問題で、歯を食いしばってでも義の戦いをしていかなければいけません。不安は私のものではない。だから捨てる。不安から心配、思い煩い、また焦り。皆さん、キリスト Only、神の国 Only、神がすべてを支配なさっていらっしゃる、聖霊 Only。皆さんが焦って頑張るからどうにかなるということではなくて、聖霊の力によって、また聖霊の力でなければいけません。だとすれば焦るということは私のものではありません。昔のものなのです。そういう風にひとつひとつの事だからと平気でパスしないで、ブレーキをかけて違うよ、違うのではないか。なのに私はなぜついつい…だからまた祈る。契約に釘を刺して、聖霊の力を求めてまた祈るわけです。それは悪いことではありません。その作業が求められるわけです。でも、これが悪魔の騙しごとだということが分かっている限りは、仕方がなく当たり前だから人間だからしょうがないのではないかなってしてしまうのです。それが信者になって 5 年、10 年、20 年経ったと思ってみてください。御言葉はたくさん聞いて、それによって塗られるようにはなったのですが、中身が全く変わらないのです。サタンが 1 秒でも刺すとすぐに倒れてしまう。何にも力もない。そんなはずがないのに。サタンに騙されないんだ。これが信仰生活の大事な項目だという認識がなくて甘かったからそのツケがまわってきてしまうようになることなのです。

それからよくよく考えてみてください。キリスト Only、神の国 Only、聖霊 Only が間違いなければ、不満を持つということはおかしくないのでしょうか。何が不満なのでしょう。不満から生まれるものが不平、言い訳、弁明というものです。そういったものが、そういう状況の中で仕方がないと思われていたものが、Only 聖霊が間違いなければ、神がいつでもともにおられて導かれることが間違いなければ、それは私のものではないでしょうか。いらぬのではないのでしょうか。そういうふうには真剣に具体的に考えて当てはめて適応して行く作業が求められます。もちろんこれさえも神様の恵みで、特に精神的に弱い人はこれが難しいのです。聞いて、もう 1 歩考えて、違うのではないか。自分が不安になって、自分がこうなる。それを責めるつもりは全くありません。神様はそういう方ではありません。しかし、それをそのまま放ったらかしにしないでキリストに基づいて、御言葉に基づいて一歩だけ考えて違うのではないかというふうには思うべきなのに、そこに行けないんですね。悪魔がその人の弱点、今までの霊的な問題を捉えて、そこに行けないように、そこで邪魔をするわけです。でも、イエス・キリストはその悪魔に勝利されたので、心配しないで何回かそういうことがあっても違うよ。私はできる。これを握ってこの完璧な契約を握って、おかしい、おかしい、と適応できるんだ、適応できるんだ、あきらめちゃいけない、あきらめちゃいけないと戦ってください。何回かやってみてもあまり効果がないねと思わせるかもしれません。それも悪魔の嘘なのです。

それからキリスト Only、神の国 Only、聖霊 Only が間違いなければ、他人と比較することもおかしくないのでしょうか。今までは当たり前だったかもしれません。なぜ比較するのでしょうか。他人と競争して、また妬んだり、自分のプライド、自尊心、どうのこうのになるということは、人間にとって普通が一番デリケートな部分に間違いありません。けれども、それがどうでもいいことにならないといけません。なぜならキリスト Only だから。私は天にあるすべての祝福をいただいたので、人と比較して自分をアピールするような、そんなちっぽけな貧乏な人間ではありません。天にある霊的すべての祝福を頂いているので、地上のすべてが奪われても構わないくらい富んでいる者なのです。その契約から見たとき

に、比較すること、自尊心などいらないものなのに、サタンはこういう内容を持ってきて私たちを倒そうとします。だから、いらないもの、私のものではない、違うよ、違うよ、違うよ。

それから、この契約から考えたときに、人間的な自慢、人間的な誇り、それは恥ずかしくないでしょうか。よくよく考えてみると、何が地上にあるものでそんなに自慢したいのでしょうか。天にある霊的すべての祝福の主人公が間違いなければ、その自慢、あるいはそれによって人間的に他人を裁いたり、批判したりすることはおかしくないでしょうか。自分の主義主張、また自分の頑固さなども全部おかしいわけです。契約から見たときには、神の国が分かっていたら、だからそういうものは昔は大事にしていたかもしれませんが、今は私のものではない、私の所有ではない。私の管轄ではない。私の国にはそういう法則はありません。そして、サタンが一番よく使う方法、私たちを落胆させます。Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊であれば、絶対不可能な状況であっても落胆はしないし、私たちのものではありません。自分がどんなに弱い人間でも、どんなに不利な条件、状況でも落胆はしません。なぜでしょうか。自分だけなら落胆します。この神の契約が間違いなければ落胆はいらないものなのです。挫折、諦め、絶望等々の言葉は、私の辞書にはもはや存在しないものなのに、つつい取り上げるから、あれは悪魔の騙しごとなんだ、違うよ、違うよとしてカットしないといけません。それから、また考えてみると、人間的な欲を出して欲望に走ったり、人間的な動機、いろいろな計算なども全くいらないものになります。特に人に対しての憎しみ。なぜ憎しみがそんなに強く、その人を捕えるようになるのでしょうか。それは信者の場合は裏返しますと、キリスト Only、神の国 Only、聖霊 Only になっていないからなのです。憎むしかない事情があるからではなくて、信者が自分自身を、我を忘れて失って逃しているからなのです。だから、憎しみもおかしい。私のものではないのです。自分が道徳的に偉いからではなくて、この契約の上立って、憎しみは私は関係ないもの、傷を受けることは私の辞書にはありません。つまり、怒りをあらわにすることなどはいらないものです。また、今日の聖書のいろいろな箇所から見ているように、情欲に囚われることなど、私たちにはそのような弱さがあり、それをサタンがつけこんでくるようになりますけれども、それがもう古い人間、古いものだと、私のものではない、私の管轄、私の世界のものではないということをよく見分けてください。どのようにして見分けることができるのでしょうか。だからまた戻るので。神の契約に。キリスト Only、神の国 Only、聖霊 Only に釘を刺して刺していけば、これはいらないものだということが分かってくるようになります。この中で個人的に、それぞれにその中でも特に弱い部分があると思います。私の場合は人を批判する罪に陥らないように、その方法は自分はよりひどい人間だとすぐに告白することなのです。姦淫の罪を犯した女の人に石を投げようとした時にイエス様がおっしゃいました。その時にイエス様がおっしゃった言葉の意味は、お前はよりひどい人間なのだよ。一緒じゃないのか。その行為をしたのかしてないかによって人を評価する、それは律法なのだ。根本的に考えたときには、姦淫の罪を犯してないとしても一緒ではないのか。なぜ石を投げることができると勘違いしてるのかとおっしゃったわけですね。だから、自分はよりひどい人間だと正直に謙虚になることです。なかなか難しいのですが、これが悪魔に騙されないことです。人が人を批判するそういう資格、権利が許されている者はひとりもいません。本当は、パウロが教会に向かって責め立てるような表現をするのは、こういう意味での批判ではありません。それを真似して何でもかんでもパパパパッと批判する人がいますけれども、批判するお前は？といつも問われるべきなのです。だから、こういうのは私とは本当は関係ない。私が騙されて自分の古い人間にそのまま囚われてやるだけのことであって、本当は私のものではない。

今いろいろ申し上げました。この他にもたくさんありますけれども、私は祈りの中でいつもこういう内容を取り上げて、これは私のものではない。それでもまたこれの中にはまっていく場合がありますけれども、でもちゃんと認識しています。だからこそ、またここにハマった時にはハマったではなくて、あるいは感覚もないままパスするのではなくて、ああ、また騙されたんだね。だから騙され倒れるのではなくて、だからこそ神の契約にまた戻ろう。Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊の方にまた戻って、もう一回釘を刺して。一回騙されたので一回ではなくて、一回を十回に増やして釘を刺してください。そのうち内側がどんどん整えられて天の御国の祝福が溢れるようになるでしょう。信者のものではない、いらないもの、騙されることなんだという意識をしっかりと持つようにしましょう。

最後にガラテヤ 5 : 16-18 を読みます。「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉

に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません」。私たちは御霊に導かれるものなのです。肉の欲、自分のレベルに従うというのは古い人間なのです。これをよく見分けてください。しかし、その性質が残っているので、悪魔、サタンはそれを利用してようとしていることをよく覚えていてください。サタンに騙されないで、契約を損することがないように、むしろサタンの騙しごとがある度に契約にさらにさらに釘を刺し、サタンの裏をかくようなことにしましょう。それでさらに Only の契約に立って、先週も申しあげましたように、あなたがたは私が行っていたことよりさらに大きなことを行うことができるよという契約の中に。イエスの名によって万民をいやす契約、そしてイエスの証人として立たされるその契約、あらゆる国の人々を弟子とするそのイエス様の契約、その契約を損することがないように。むしろサタンの騙しごとをよく見分けていれば、この契約がサタンの攻撃がある度により豊かに、より強く、より固いものになるはずなのです。その結果、現場の見張り人として契約を全うする伝道者の旅程を堂々と歩けるようになることを信じます。

(祈り)

恵み深い父なる神様。何かを積極的に行う以前に、目に見えない悪魔、サタンが信者を古いものを通して騙そうとしていることに気づいて、それを意識して悪魔の騙しごとをよく見分けて、契約の上に立って、それを退け捨て、義の戦いに勝利できるようにひとりひとりを祝福してください。私たちにはその悪魔の騙しごとを乗り越えて、世界を生かすための契約があることをしっかり心に覚えさせてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン